554.5.23

554.5.23

山形新聞 (第三種郵便物認可) 第33829号

空手道一筋 男の夢実現

新庄出身の岸さん

マンハッタンに道場開く

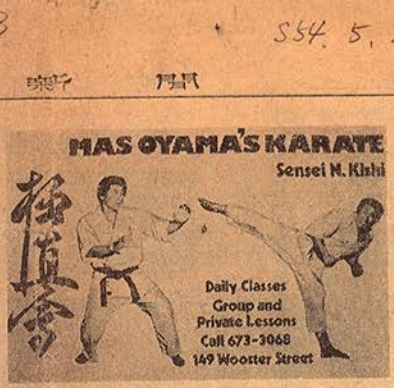
申し込みが殺到

地元紙も紹介 〝厳しさ〟好評呼ぶ

新庄市出身の空手青年が、ニューヨーク・マンハッタンで、念願の道場を開いた。渡米五年半。休むひとつで〝男の夢〟を実現し、現地の新聞でも大きく報道された。空手道一筋に生き、精神力、礼儀作法を強調。門下生には道場のそうじからはげませている。この厳しさが逆にニューヨーク子の心を捕え、申し込みが増え、問い合わせの電話も相次いでいるという。

一年ぶりに里帰り

この青年は新庄市飛田出身の岸信行さん(29)。小さいころから武道好きで、新庄工高時代から空手を始めた。卒業後、地元に就職したが、好きな空手を追求しようと〝大山道場〟で有名な極真会の門をたたいた。国鉄会社に勤めながら、修行にこう種々、難関の本部指導員になった。二十三歳のとき、台湾へ派遣されたが、その後ニューヨークの極真会アメリカ本部指導員として、ニューヨークで忙しい道場のマスター(師範)として一年ぶりに実家でつる、現地の新聞報道を両親にみせる信行さん



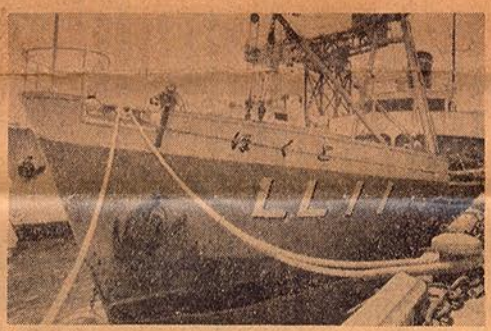
医院、薬局荒らされる

天童 連続三件、同一犯人か

二十二日午後十一時ごろから二十三日午前五時ごろまでの間に、一一箇所(四個のサッシ窓が石のいなかった。

最後の〝海のSL〟引退へ

保安庁の設標船「ほくと」



近く引退する最後の〝海のSL〟設標船「ほくと」=横浜の新港ふ頭で

寒っ盛り 鍋料理

最上地方には山菜の宝庫として知られ、日陰日には出形周辺からマイカーを連ね、山山菜採りに出かける家族連れも多い。山間部に近い農家では、いまごろがシーズンイチ押しの山菜の味。

庭にむしろを敷き、ゆでたにがりのゼンマイを広げ、天日で自然乾燥。もむほどに柔らかさが増すとあって、一日七回ほども揉むほどすが、一見の価値ありした

米国人の自己肥えてきた。やはり実力が伴わなければ、やっていけない」。

一六七センチ、七七キロと小柄だが、胸囲一一〇センの鍛え抜かれた体。門弟以上にけいこを積むことも忘れない。

農家の長男だが米作農業を取った。この十七日、十一月下旬、東京で開かれる第二回世界選手権の準備で一年ぶりに帰国。二十日から七十三日まで実家に帰ってきた。父親の父親さん宝さと母親のニューヨークに潮流。様子を見てきているだけに「つぎれば帰ってきてほしいが、とうにもならないようだ。納得のいく人生を送るよう見守るだけ」とすっかりまかせきった様子。

信行さんは「道場を持ってから七カ月目。今が大切な時期なので、すぐ帰らなければならない。とにかく自分で選んだ道。どうしても成功させなければならない」と新たな決意に燃えている。

が一段と上昇。一時は電話が殺到し、けいこができなかったほど。「米国人の空手熱は高い。日本人も数多く道場を開いているが、

モクモクと煙を吸き上げながらビストンを動かして航行する蒸気船。その最後の一隻が、二十八日、姿を消す。海上保安庁の設標船「ほくと」(五二九トン)で、海の安全を願って二十七年間ブイを設置されたり横浜の第三管区海上保安本部に横浜港に入港した。

しかし、高度化と効率化を図るため、昭和三十七年に建造された「ほくと」は、ディーゼルエンジンの新造と交代、解体される。

北は根室から名古屋までの広い海域を担当、これまでに約四千五百個のブイの設置や整備に当たってきた。

海上保安庁が所有する四隻の設標船のうちで一番古い、エンジンはビストンを三つ備えた「三段膨張式」と呼ばれる蒸気機関。ボイラーで重油を燃やし、発生した蒸気の圧力でビストンを動かすSLと同様に原理はワットン時代この蒸気。ディーゼルなどの内燃機関と違って、エンジンが静かなのが特長で初期までは一部の客船などに同型の機関が使われていた。

しかし機関室が思いうるが出ないのが欠点。戦後は、レーピンやディーゼルにとられた。それでも耐震、修理と整備作業が簡単なので、ートや設置船などの特殊な作はその後もしばらく使われそのタクボートも七、八年に次々にディーゼル化し、って前線するのは「ほくと」なっていた。

六月に配属される新「ほは、旧「ほくと」より大きいで、ディーゼルエンジンる。旧「ほくと」の最後のった小黒康男さん(五十歳)海上保安本部「動き出しのがわからない静かな船でした。こんな静に乗ることはもう二度とたくない」と名残を惜しんでだが一方では、機関室以七にならなくて、熱海夢放されるかった。熱海夢でやっと涼しい船に乗れる「ほくと」を待っていた。

病苦から老人二人自殺

二十二日午後四時四十分ごろ、鶴岡市山王町、無職小林さんさんとも)が、家族の留守中、下の階段手すりに首をつって死んでいるのを発見した断の人が見つけ、鶴岡署調べた。

調べによると、小林さとし七月ごろから胃にかの病院に通院、また眠近「自殺したい」と話というから病苦から自殺いう。

二十二日午前四時ごろ、田、農業江川和平さん(物置のはしごにかかっブで首をつって死んでいそこをさん宅に家族が即け出た。

調べによると、和吉さ